

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人飯塚市社会福祉協議会筑穂支所児童デイサービス				公表日	2026年 4月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		プレイルーム、東棟ホールやおもちゃ図書館が利用でき、保育室もマットや滑り台等がおける広々としたスペースがあります。午睡部屋もあり状況に合わせて使い分けています。十分なスペースがあり適切です。	事業所の出入口には鍵があるが、保育室の出入口の鍵がなく子ども達の出入りについての安全面が課題です。熱等感染症の疑いがある児童を隔離する保健室がない。十分なスペースがあり、改善点は見当たらない。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		現状は適切。看護師も常駐しているので、何かあった時でもすぐ診てもらえます。	一日約8人の子どもに対し、スタッフが5人いるので十分だと思います。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	保育室は転倒しけがをしないようマットを敷いています。隙間でのけが防止のため全面には敷いていません。全面ガラスが大きく外からの刺激が入りすぎるため、ガラス半上部に半透明のワックスを塗り、外部の刺激を半減しています。トイレや洗面台が子供向けになっておらず子供が一人で行くのが難しい為、踏み台等で補っています。手が届かない場合は抱えて一緒に手洗いをしています。	トイレや洗面台が子供向けになっておらず子供が一人で行くのが難しい為、もう少し高い踏み台があればと思います。トイレ、洗面台を子ども用に工事してもらいたいです。洗面所やトイレなど工夫をして一人で出来るようにしているが、子ども達仕様の設備が整備される方が良いです。(高さ、大きさの他に可愛らしさ) 2歳児にあった高さの踏み台がほしいです。子ども用のトイレ、子ども用の洗面台に出来るならしてほしいです。	

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	毎日塩素消毒、換気を行い、感染の無いように配慮しています。昼寝する部屋の壁が傷んで不衛生だった為、修理を行っています。	雨漏りの所を修繕してほしいです。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて活動部屋、和室、プレイルーム、東棟ホール、おもちゃ図書館を使用することができます。午睡以外の時間は午睡の部屋を個室として使用できます。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		月一回の職員会議や職員の連絡ノートで共有しています。	職員会議の他に連絡ノート等で共有しているがもっと密に目標設定や振り返りをする時間が取れたら良いと思います。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に一回職員で検討し、業務改善に繋がっています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		月に一回の職員会議にて意見を出し合い、業務改善に繋がっています。職員会議のほかにや供の午睡時の時間の児童の職員で話す機会を設けています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	第三者による外部評価は受けていないが外部から緒方先生(音楽療法)、木藤先生(療育相談)に介入してもらっています。	外部評価を行い、改善点を知り、利用者が増えるようにしたいです。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		全職員が法人内の研修を受けています。希望者や対象職員は外部研修に参加したり、社内研修にも参加しています。	外部研修を受けた後は職員会議で伝達を行っているが、参加できない職員は資料を見るだけになり伝わりにくい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		年に一回支援プログラムを作成、公表しています。	

適切な支援の提	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		日々連絡帳にて子供の状況を共有し、相談員や保健師と連絡を取り合ったり、担当者会議を行い計画書作成に役立てています。アセスメント、モニタリング、聞き取り、担当者会議を行っている内容等で作成しています。計画を作成する際、必ず親子のニーズを聞き取り作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		初期の作成時や更新時は担当職員や職員会議で検討しこどもの状況に合った計画を作成しています。みんなの意見も聞きながら作成しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員会議で共有し、計画に沿った支援を行っています。合っていない場合は見直すことにしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	事業所独自のアセスメントを使用し、確認しています。日々の変化を個人の記録表の他にも日誌にも記入しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		児童発達支援計画には必ず「本人支援」「家族支援」「移行支援」について具体的に設定し、支援を行っています。担当者会議での内容も踏まえて担当職員、職員会議で検討し設定しています。	今後相談員や保健師、保育園等と一緒に「地域支援、地域連携」についても考慮していく必要があると思います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎月全員で交代しながら(チームで)立案をおこなっています。みんなに意見を出してもらい、活動内容を発展させています。	

児 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		一カ月ごとに担当者を変えて、活動プログラムを立てています。毎月地域の図書館へ行き読み聞かせに参加しています。季節のいい時、お天気の日、地域の公園へ行ったりとプログラムを入れ替えたり工夫しています。	活動がどうしても室内優先になっている。外遊びや外出活動をもっと増やせるように工夫したいと思います。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		午前中は基本的に集団活動、午後からは午睡をしない子どもと外活動を増やしたりと個別活動を取り入れています。個々の発達状況を踏まえ支援を行っています。	午後からは、午睡をしない子どもと外活動やお箸の練習、はさみの練習等個別活動ならではの活動を増やしていきたいと思っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼で支援の確認を行っています。参加できない職員は連絡ノートで共有しています。月一回の園だよりの中に活動内容を掲載しています。別紙にその日の担当も決めています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	早く帰る職員は、連絡ノートを活用し毎日確認しています。	終礼で振り返りを行っているが、パート勤務で先に帰る職員は支援終了後の終礼には参加できません。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日その日の担当者が活動記録表や日誌を記入し、記録を徹底しています。担当者以外は目を通すようにし検証・改善に繋げていま	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年に一回は必ず、また状況に変化があった時はモニタリングを行い児童発達支援計画の見直しを行っています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者と担当職員が参加しています。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		保健師、相談員、保育園・幼稚園の先生と連携して支援を行っています。計画書・モニタリングを提供し、情報提供している。また、電話で共有しています。	必要機会があれば、医療関係者と連携して支援を行っていく体制を整える。	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保育園・認定こども園・幼稚園へ移行する際、慎重に情報共有しながら相互理解を図っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		相談員や保健師、保育所や幼稚園の先生と共有しています。	就学時には療育相談の先生とも情報共有を図り、小学校や特別支援学校との間で情報共有と相互理解を図る必要があります。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	3			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	1	月に一回専門家(木藤先生)の療育相談を設けています。	連携の体制はとっているが、スーパーバイズや助言を受ける機会は今のところないです。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	保育園や幼稚園と併用利用しているこどもは地域のこどもと活動する機会があるがびよびよだけ利用のこどもは機会がないため、毎月地域の図書館の読み聞かせに参加しています。ボランティアグループ「布っこ」に来園していただき読み聞かせをして頂いてます。図書館や公園など遊びに行った際、来ている子供と一緒に活動しています。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		毎回、連絡帳でこどもの様子を伝えているが、何か変化があった時は送迎時やLINE、電話で保護者に伝え共有しています。	保育所等に送り迎えのこどもの保護者とは、普段顔を合わせないため、もっと蜜に情報を交わす必要があると思います。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	家族向けの研修や催事の情報をその都度案内(配布)しています。	事業所では家族支援プログラムを(ペアレントトレーニング等)は行っていません。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学時、初回の担当者会議にて入園の説明をするときに行っています。利用開始時(契約時)に説明しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		作成する際は必ず、保護者にニーズを聞き取っていますが、担当者会議や送迎時、連絡帳、電話、LINE等にて意向を確認する機会を設けています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		必ず児童発達支援計画を示しながら内容を説明し、確認をしてもらい同意を得て署名頂いています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時や連絡帳、電話、LINE等にて相談を受け支援を行っています。必要であればその都度面談も行っています。	保育所等に送り迎えのこどもの保護者とは、普段顔を合わせないため、もっと蜜に情報を交わす必要があると思います。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	月に一回音楽療法に保護者が参加する機会を設けている。保護者会議は開催していないが、音楽療法の際、保護者同士の交流を勧めている。年1回福祉祭りを開催しています。	コロナ過以降、保護者同士の交流が減っています。音楽療法の日もあるが働いている保護者が多く、参加率が低くなっています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		月に一回療育相談の先生に来て頂いています。相談や申入れがあった場合はすぐに管理者に報告し迅速に適切に対応しています。	療育相談日を設けているがなかなか保護者からの相談の申し込みがなく、形式だけになっている傾向にあります。相談のやり方に工夫が必要と思います。(年1回は受けるなど)

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月びよびよだよりを発行し活動概要や行事をお知らせしています。こどもの活動の様子を伝えるためLINEにて内容や写真を毎月送っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		全職員個人情報に関して「個人情報保護等に関する誓約書」に著明をし、十分留意しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		保護者と送迎時や連絡帳を使って情報伝達をしていますが、直接会えない保護者とは電話やLINE等で意思の疎通が図れるよう配慮しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	地域の学校の実習生の受け入れを行っています。不定期だが地域のボランティアグループ方によるお話を開いたりしています。	
非	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	各マニュアルを作成し、定期的に防災訓練(火事、地震、防犯)を計画し、実施しています。実施した様子を園だよりにて報告・周知しています。	各マニュアルや実施した様子を、今後LINE等を使って周知していきたいと思います。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定し、児童デイサービス・生活介護・通所介護と合同で訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		見学时、初回の担当者会議にて、てんかん発作時の対応等必ずこどもの状況を確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		現在アレルギーのある子供は利用していませんが、アレルギーに対応できる場合は厨房と相談し対応しています。	

非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		毎年安全計画を作成し、月に一度危険なところはないか振り返りをし安全管理に配慮しています。危険な箇所があれば速やかに対応しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		ホームページにて周知しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		もし危険なことや事故があればヒヤリハットを記入し、事業所内で共有し再発防止に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎月虐待課題について職員会議で検討・対応しています。年に一回法人内での虐待防止について研修を受けています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		毎月身体拘束について職員会議で検討対応し身体拘束防止の会議を行っています。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合は事前に説明し了解を得た上で計画書に記載しています。	